

平成25年度学校評価（年間評価）

学校名 大分県立佐伯支援学校

前年度評価結果の概要	<p>○職員の「職場体験研修」から得たものを教育活動に還元する授業実践を行い、その取組状況を職員会議時の情報交換の場で報告することで、それぞれの成果・課題の共有と学部間連携に役立てることができた。</p> <p>●津波対策で職員のスリッパから靴への変更という、意識の上での変革も伴う件について時間がかかりすぎた。</p> <p>○ポータルページなどで得られた情報から、主に合同学習でつきたい力はどのようなものかを出し合い、題材の選択や授業の改善に取り組んだ。さらにそれを踏まえて2、3学期の個別の指導計画作成の参考とすることができた。</p> <p>●生徒一人一人に応じた教材を開発・工夫し、指導を実践できたが、いったんできるようになったことでも、日常的に扱わない事柄の場合は、時間が経つと自信が持てなくなることがある。日常生活や他の学習形態の中に織り込むなどして、繰り返し学習して定着を図る必要がある。</p> <p>○私立の高等学校及び、昨年巡回相談を実施した公立の高等学校に対しては、訪問してチラシ等配布し説明を行なったところ、それぞれの学校から巡回相談の申請があり対応した。</p> <p>●幼稚園、小学校、中学校においては、県事業「巡回相談」の概要や手続き等については周知されてきた感があるが、高等学校はまだ十分ではない印象を受けた。また、小・中学校等の中でも、毎年担当が変わる可能性もあることから、引き続き周知の徹底をはかる必要がある。</p>
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
基本的人権を尊重し、児童生徒の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、社会参加・自立をめざし、豊かでたくましい心身と自ら生きる力を培う。	<p>1. 集団生活への積極的な参加をとおして、社会生活に必要な基礎的な能力を身につけるとともに、職業生活に必要な能力・態度を育てる。</p> <p>2. 児童生徒の実態を客観的に分析し、「わかる・できる」ことを増やし、「確かな力」、「生き抜く力」を育てるとともに、主体的に行動する態度を育てる。</p> <p>3. 特別支援教育のセンター的役割を担い、特別な支援を必要とする児童生徒の理解・啓発のため、保護者や関係機関、地域との連携を推進する。</p>	<p>(1) 組織的なキャリア教育による一般就労の促進</p> <p>(2) 専門性の高い教育の実践</p> <p>(3) 地域に開かれた、安全・安心な学校作り</p>

重点目標	達成（成果）指標	重点的取組	取組指標	P L S L	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価
					評価	分析・考察		
(1) 組織的なキャリア教育による一般就労の促進	<p>○児童生徒や保護者の〈思い・希望〉に応じた進路支援に係る研修会や相談会を年間3回実施するとともに、保護者と合同で進路開拓を行う。上記研修会、相談会、進路開拓に70%以上の保護者が年間最低1回は参加するように広報・啓発活動を行う。</p> <p>○高等部3年生の進路先の決定100%をめざすとともに、一般就労及び就労継続支援A型の生徒を輩出する。</p>	<p>①保護者や児童生徒の思いや願い（夢と希望）を受け止め、児童生徒の将来を見通した就労のため、組織的な進路指導の取組を充実する。</p>	<p>○PTA研修部・関係分掌との共同企画・運営に基づく「研修会・学習会（関係福祉機関・事業所等の招聘）」及び「事業所見学会」を2回以上実施する。</p>	PL 進路 SL 教務	4	<p>○各学期のPTA・ゆとり参観日毎に、保護者・職員に対して有意義な情報提供となる進路研修会を設定し、積極的な広報・啓発を行うことで、参加率（最高参加人数36/51:70.5%）を2回達成できた。</p> <p>○進路支援において、新規職場実習受入れ一般事業所数が20社を超えたことや関係支援機関との連携が強化され、相互が持っている情報の交換・共有化を図ることができるようになったこと等の成果により、高等部3年の就労先（1月末現在で、ほぼ方向性が決定、現在連絡調整段階）のうち、一般就労3名、A型2名（見込みを含む）が実現できた。</p> <p>○学校関係者全体で取り組もうとする「協力・協働」の意識向上と実践（例：「保護者・生徒での接客サービス」「職員と保護者の職場開拓」）も成果の要因として挙げられる。また、今後の進路指導・支援の方向性を大きく担う役割になると考えられる。</p>	<p>○様々なタイプの児童生徒に対する柔軟な進路指導・支援が可能な知識・対応力、つまり「多岐に亘る引出（キャリア）」を構築するために、各種研究・研修会への積極的参加と学校内での学習会、様々な職種の体験・見学を毎学期開催。</p> <p>○早期より進路選択に係わる意識とコミュニケーション能力を育てることを目的として①「卒業生を招いての懇談（仮称）」等の講演②就労現場の見学や学部・学年に応じた進路学習（特に、小中学部児童生徒に対して「職業の種類と働くこと」「お手伝いと仕事の違い」（共に仮称）等の学習と体験の充実）③全学部対象の「メンテナンス校内検定」の実施をする。なお、高等部は次年度から「職業」を開設。</p> <p>○職場定着支援の必要性が高まっているので、定期的な追指導・支援を関係支援機関等と連携して実施すると共に、事業所・関係支援機関等との情報交換会を必要に応じて開催する。</p>	<p>○新規職場実習受け入れ一般事業所が20社を超えたということで、その努力がすばらしい。</p> <p>○8年ぶりに一般就労を実現できたが、定着までの支援が大切になってくる。</p> <p>○学校側が、3年間は卒業生の定着指導にあたってほしい。また、障がい者就業・生活支援センターと連携して定着指導できるのもよい。</p> <p>○この1年でキャリア教育がパワーアップした。産業現場等における実習が大変であったが、先生方がやってくれているので親もしなければと思った。親もパワーをもらった。</p> <p>○進路関係の研修に先生方が一生懸命だが、保護者側がもう少し意識を持ってもらって参加していきたい。</p> <p>○小学部の段階から接携ができていて、愛される子どもを育ててくれている。</p>
		<p>②キャリア教育の視点を踏まえた授業づくりと人間関係形成・社会形成能力等の観点に立ち、体験を踏まえた小学部・中学部・高等部が一貫したキャリア教育の全体的計画の充実を図る。</p>	<p>○高等部における、より現実的な就労に適應できる実践的な作業種目（接客サービス）の構築と推進を行うため、小中学部の児童生徒も接客サービスに参加すると共に、早期より進路に対する意識を涵養する。</p>	PL 教務 SL 進路 小中高	4			
		<p>③生徒の就労先や産業現場等における実習先を広げるため、全職員が一体となり、職場開拓を行うとともに、一般事業所・学校・保護者・関係機関等と協議する。（職場体験研修及び保護者による職場開拓）</p>	<p>○全職員が事業所に出向き、様々な職種・業務・職域の見識を深めるための職場体験研修を行うと共に保護者を含めたチームを編成し、実習先の新規開拓を行う。</p> <p>○関係福祉機関等の参加を求め、生徒の進路支援に係る企画・審議・判定・情報交換等の会議を必要に応じて実施する。</p>	PL 進路 SL 教務 小中高	4			

重点目標	達成（成果）指標	重点的取組	取組指標	P L S L	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価
					評価	分析・考察		
(2)専門性の高い教育の実践	○複数の教員がP D C A サイクルの中で議論を繰り返しながら学習評価を行い、授業改善をすすめることによって、保護者の授業評価での満足度80%以上を達成する。	①個別の指導計画、個別の教育支援計画等を活用し、各学部内でのチェック体制を整備し、改善と評価をする中で、職員間の共通理解を図る。	○夏季休業中に、得られた情報を共有し意見交換をしながら、2学期以降の児童のつきたい力を検討する。まとめられたつきたい力をもとに、指導内容を選定して指導計画を作成する。 ○2学期以降、計画された授業を実践し、お互いに指導のあり方を検討しながら反省・評価をして授業改善に取り組み、次年度の年間指導計画作成に役立てる。	PL 小学部 SL 教務	3	○客観的な指標を元に児童をとらえ、意見交換し、共通理解しながら今後の指導にいかす取り組みはよかったと思う。指導を進めていくにあたって、適宜情報交換をしていくとより指導が充実したのではないかと考える。 ○特に合同学習の中で、個別のねらいや評価を共有してきた。各担当で改善・工夫して取り組むことができ、次年度の年間指導計画作成へ向けて、よい実践を積むことができた。	○情報交換していくことが定着してきた。今後は年度の早い時期から取り組みを始め、必要に応じて実施できるようにしたい。そのために、これまでに得られた情報などのデータを引き継ぎながら、次年度の指導にいかせるように工夫をしていきたい。	○学部を越えて一人一人の児童生徒の成長を見届けてくれている。 ○入学時の様子から今の姿を見ると小学部1年生の成長の様子がうかがえる。 ○親と子どもが一緒に頑張る行動はとても大切。子どもの姿に親は励まされる。子の頑張りを見せられることで親には力になる。 ○チャレンジ検定やメンテナンス作業を熱心に指導してくれている。家庭でも指導してみた。テストをとおしての評価は、はげみになる。校内検定の実施はよかったと思う。親子でもがんばれる。 ○テーブルふきの校内検定に全学部の児童生徒が参加できることはよいことだ。 ○働く意識づけは家庭でも必要である。給料日を楽しみにして働き、得た給料をどのように使うか考えることが大切である。
		②キャリア発達の視点に沿った授業づくりを小学部・中学部・高等部で取り組み、授業視点シート等の活用をするとともに、言語活動をあらゆる場面で意図的に取り入れることによって「振り返り」「気づき」「意識化」できるよう、授業改善を図る。	○全教員が、年間最低2回は指導案を作成・提出し、配布すると共に授業の案内を行う。 ○高等部では、学校外でメンテナンス作業を行う場所を2カ所設定し、それぞれ最低2回以上実施すると共に、地域の方の評価を受ける。	PL 高等部 SL 教務	4	○公開授業、学部間交流授業研、グループ研究、免許取得者研修等で指導案を作成した。授業視点シートをもとに参観及び、授業後の意見交換をすることで授業改善につなげることができた。 ○1・3学期は、木立小・木立公民館、2学期は、なおみ園・長寿苑と学期に1回ずつ、のべ6カ所校外清掃（トイレ・窓）を実施できた。学年混合の班での清掃前後のミーティングを重視することで、挨拶や身だしなみへの意識も高まり、主にマナー・清掃態度で高い評価を受けることができた。 ○実習日誌を活用して、作業前の個人のめあて決め→作業後の振り返り→振り返りを踏まえた次のめあて決めのサイクルを繰り返すことで、自分の作業技術・態度を見直すことができ、作業意欲の向上へつながった。 ○校外清掃では、評価表の中で「拭き残しがあった」との指摘もあり、清掃後の仕上がりの確認や技術面ではまだまだ課題がある。 ○メンテナンス（テーブルふき）の校内検定を実施。小学部6名、中学部4名、高等部30名の参加があった。	○今年度と同様に指導案の作成とともに授業改善につなげていきたい。 ○来年度も学期に1回以上校外清掃を実施する。その際は、教師が複数で下見をした上で、清掃方法などを事前に教員間で検討し、事前学習に活かす。 ○日頃の授業の中で、仕上がりのチェックを重視し「きれいに仕上げる」意識を向上させる。	○働く意識づけは家庭でも必要である。給料日を楽しみにして働き、得た給料をどのように使うか考えることが大切である。
		③学校教育目標達成のため学校運営組織の見直しを図るとともに、互見授業等をとおして、小学部・中学部・高等部の各学部間のつながりを大切に授業づくりを充実する。	○指導の形態によっては生徒の実態に応じたグループを編成して学習を行い、2週間に一度（検討事項が生じればその都度）話し合いの時間を設けて、指導の進め方や教材教具、指導方法の工夫について検討する。 ○学期に1回ずつ互見授業の期間を設け、生徒について共通理解したり、互いの指導について教師間で検討したりして専門性の向上を図る。	PL 中学部 SL 教務	3	○国・数の他、職・家、美術、自立活動、生単においても、生徒の実態に応じたグループを編成したことで、指導の手立てや授業の進め方、教材教具等について、焦点を絞って検討することができた。実態に合った課題に取り組むことで、生徒には「できた」という自信が付き、家庭においても一人で買い物したり簡単な調理をしたりするなど、行動に変化が見られるようになった。 ○6月、11月、2月を互見授業期間に設定。11月には初任研授業や特定授業研究会があったこともあり、他学部の教師からも客観的な意見をもらうことができた。教材の工夫や指導の進め方の見直しにつながった。 ※全学部通じて保護者の授業評価での満足度は、92.5%である。	○各教科の学習内容と関連した内容を、校外学習を含む体験的な学習と同時期に扱い、学習したことを日常生活や社会生活に活かせるようにする。 ○次年度も互見授業期間を設け、授業改善を図る。	○互見授業を行うことで、いろいろな気づきが見られる。よい取組だと思う。

重点目標	達成（成果）目標	重点的取組	取組指標	PL SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価
					評価	分析・考察		
(3) 地域に開かれた、安全・安心な学校作りの推進	<p>○グラウンド（第1避難場所）へ4分以内に到着できるように取り組む。中学部・高等部の3分の2以上の生徒が、地区避難場所（第2避難場所）まで3分以内に到着できるようにする。</p> <p>○学校内で安全点検の不足が原因での事故（物が落ちてきて怪我をしたり、出っ張ったもので頭をうったりなど）をゼロにする。</p>	<p>①防災・安全・防犯教育等危機管理意識の醸成と地域に信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>○年間4回の避難訓練（火災・地震・不審者）を実施する。</p> <p>○年度初めに全職員の安全点検場所分担表や見取り図を制作し、2ヶ月に1回、奇数月の第1金曜日に全職員で、学校内（校舎内外すべての場所）の安全点検を行う。</p>	PL 生徒指導 保健体育 SL 教務	3	<p>○年間4回の避難訓練を確実に実施した。全ての訓練で、実施後に「反省の場」を設定し、「訓練前の打ち合わせ→訓練→改善策の話し合い」のサイクルで進めることができたことで、回を重ねるごとに内容を高めていくことができたと思う。それにより、本年度最後の1月避難訓練では、第1避難場所への全員の4分以内到着は100%達成、第2避難場所までの中学部・高等部の3分の2以上の生徒の3分以内到着（20名が3分以内）は59%の達成率まで上げることができた。</p> <p>また、「第2避難場所までの日常的な移動訓練（中学部）」「非常用食料と飲料水」「実施日を知らせない訓練（1月）」「スクールバスでの登下校時の避難場所明確化」に本年度初めて取り組むことができたことは、大きな前進だったと思う。</p> <p>○年度を通して、予定どおり点検を実施することができた。対応については点検後、即時行い、周知することが大切と考えられる。ヒヤリハットについては用紙を各教室に配布し、記入しやすいように取り組むこともできた。事故については、教室内でパソコンを出しているときにスクリーンが倒れ頭を打つ事故が4月に1件あった。年度当初の教室環境の配慮を注意喚起する必要がある。</p>	<p>○高等部と中学部がそれぞれ学部ごとに行っている、第2避難場所までの日常的な移動訓練を今後も継続させ、生徒の実践力の向上を図る。</p> <p>また、小学部児童が安全かつ迅速に避難できるよう、高等部教職員のサポート内容をさらに詳細に打ち合わせたり、「非常用食料と飲料水」の迅速な持ち出しへの対策を講じたりすることで、これまで以上に避難態勢を整える努力を続ける。</p> <p>○毎年、職員の人数が変わるので、点検箇所の決定と人員配置をその年度でできる行き届いたバランスのとれた形で考える必要がある。ヒヤリハットなどの情報も点検箇所の参考にしていただければよいと思われる。</p>	<p>○第2避難場所までの通路は、舗装できているが、登り坂になっている。できれば、1、2ヶ所平坦な広場があるとよい。</p> <p>○避難訓練で不審者訓練の取組は、大切だと思う。</p> <p>○地震、津波が落ち着いた後、学校が避難場所にならないか。</p> <p>○フッ化物洗口の取組については、親が関心を持つことが大切。全身麻酔で治療しなければいけない子もいる。親に関心を持たせるために必要な取組である。就労を目ざすのに歯が汚いと見た目マイナスの影響がある。指摘しにくい事なので、きれいな歯を保つ取組は必要。</p> <p>○就学奨励費についてはどこかがかみ合わないということが起きるので、職員の研修が必要。</p> <p>○出席簿の正確な記入によって証明されることがある。正確な記入は必須。</p> <p>○職員が出勤後に、すぐに出勤簿に押印することは基本であり、まずそこをしっかりとやる必要がある。</p>
	<p>○本人及び保護者、担任のニーズに対応した校内支援会議を学期に2回以上開催し、連携した支援につなげる。</p> <p>○高等学校からの巡回相談が、年間10件を超えるように目指す。</p>	<p>②特別支援教育のセンター的機能を担う特別支援学校として、校内外の支援及び連携を推進する。</p>	<p>○必要に応じて早めに校内支援会議を開催できるよう、毎回各学部会の中で聞き取りを行うとともに、月に1回は担当で集まり会議の開催について確認する。</p> <p>○高等学校への対応に重点を置き、年間2回、巡回相談に関する説明に出向き、特別な支援の必要性や、センター的機能について理解を広める。</p>			PL 教育相談 SL 教務	3	<p>○毎回各学部で聞き取りを行いながら計画し、小学部が6回、中学部が3回（そのうち1回は今後予定）、高等部が6回（そのうち1回は今後予定）校内支援会議を開催し、本人及び保護者または担任のニーズに対応した。</p> <p>○高等学校への対応については市内4校中、3校へ出向いて「巡回相談、教育相談の案内」「県事業・巡回相談の実際」のチラシを配布し説明したところ3校より巡回相談申請があり対応した。</p> <p>2月中旬現在の件数20件</p>

	<p>○証拠書類等の事務処理、用途内容が正確、適正に処理されていることにより、会計処理について全保護者から十分な理解を得る。</p>	<p>③保護者からの納入金については、学校私費会計取扱要領等に基づいた組織的・機能的かつ適切な予算執行に取り組む。</p>	<p>○用途について、常に適正であるか吟味し、適正、正確な処理を行う。 ○決算については会計処理の度に保護者に十分な説明、報告を行う。 ○三役が、各学期に学校私費会計処理についてチェックを行う。</p>	<p>PL 事務長 SL 教頭</p>	<p>3</p>	<p>○一学期に全職員を対象に「学校私費会計取扱要領」の研修を実施した。また、各学部の会計担当者に対して、随時、適切に処理するように指導している。 ○保護者が持参したお金については、行事等が終了後、速やかに三役がチェックした後、精算・報告をしている。 ○学校徴収金の処理については、起案後、三役で必ず会計審査をしている。 ○就学奨励費については、これまで支出の際に十分なチェックがなされていなかったため、支給まちがいが生じた。出席簿等の証拠書類の正確な記入について指導を徹底した。また、事務室内でダブルチェックを必ずおこなった。</p>	<p>○一学期中に全職員を対象に学校私費取扱に関する研修を実施するとともに、会計担当者への直接の指導をおこなう。 ○学校徴収金の項目を可能な限り減らす。 ○学校徴収金は、その都度必要な金額を徴収し、処理する。 ○就学奨励費については、職員や保護者に対して、研修・お知らせをする場を設ける。</p>	
--	--	---	---	--------------------------------------	----------	--	--	--

<p>総合評価 次年度への展望等</p>	<p>○組織的なキャリア教育による一般就労の促進では、PTA・ゆとり参観日において進路に関する研修会を設定したが、積極的な広報・啓発を行うことで、70%以上の保護者が参加する研修会を2回実施することができた。また、高等部3年生の進路先で一般就労3名、就労継続支援A型2名（見込みを含む）の生徒を輩出することができた。</p> <p>○専門性の高い教育の実践では、合同授業や指導案作成、互見授業期間の設定、学校外のメンテナンス作業の実施等で授業改善を進め、全学部を通じて保護者の授業評価での満足度92.5%を達成することができた。</p> <p>○地域に開かれた、安全・安心な学校作りの推進では、避難訓練において第1避難場所への全員の4分以内の到着が達成できた。また、市内の高等学校へ巡回相談に関するチラシを配布することで市内の高校3校から巡回相談申請が20件を越え、個々に対応した。</p> <p>○来年度以降も組織的なキャリア教育を進めるために、「卒業生を招いての懇談」「就労現場の見学や学部・学年に応じた進路学習」「全学部対象のメンテナンス校内検定」などを実施していきたい。また、卒業生が進路先に定着できるように関係機関と連携しながら定期的な追指導・支援を行っていきたい。</p> <p>○専門性の高い教育の実践では、学部間交流授業研究、互見授業などで指導案を作成し、参観及び授業後の意見交換をする中で授業改善に取り組み、今後も専門性の向上を図っていきたい。</p> <p>○地域に開かれた、安全・安心な学校作りのために、避難訓練では、高等部と中学部がそれぞれ行っている第2避難場所までの日常的な移動訓練の継続、小学部児童が安全かつ迅速に避難できるための高等部教職員のサポート、非常用食料と飲料水の迅速な持ち出しと運搬への対策などを進めていきたい。</p>
--------------------------	--